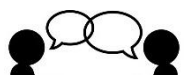


動画バージョンも
ご活用ください



ここからスタート！定期相談

～定期相談を子供と心を通わせる時間に～



定期相談の時間、どうしていますか？

先生方は、子供たちに対し「悩みを抱えていないだろうか」「最近、元気がないな」「何かあれば力になりたい」など、様々な目的や願いをもって定期相談に臨まれていることと思います。ときには「うまくいった」、ときには「思ったような時間にならなかった」との思いに至るのは、「子供たちのために」という思いがあるからこそなのでしょう。

教師の思いと現実の距離… ～話してくれない子供の思い～

先生方の話の中には、「せっかくの定期相談なのに、いざ対面してみると、子供が話してくれなくて…」といった悩みが多く出てきます。子供の立場から理由を想像してみると…



- ・ 普段の関係性によるもの （普段あまり話す機会がなければ、一対一ではなお緊張するかも）
- ・ 話しても、「注意されるのでは…指導されるのでは…」という警戒心から
（先生は指導する大人という意識があるかもしれません）
- ・ 誰にも言いたくないと思っていることがある（大人も同じような気持ちになることはあります）
- ・ 話したい相手ではないと感じている （話題によって話したい相手が別にいるかもしれません）
- ・ 自分で解決できることまでは言わない （先生に伝える必要を感じていないかもしれません）
- ・ 今、話したい気分じゃない （無理に聞こうとしてもかえってよくないかもしれません）

きっと、このほかにもあるでしょう。このような子供の事情を考慮せずに、無理に扉をこじ開けようとしても、鍵は硬くなるばかりです。ここで改めて、「定期相談の時間」の目的や在り方について、立ち止まって考えてみましょう。

教師自身が、「定期相談はこうあるべき」に縛られていませんか？



アンケート調査から、多くの先生方が定期相談に対して無意識に抱えている共通の「捉え」が見えてきました。

1. 本音の場合

定期相談は、子供が本音や悩みを話す場である

2. 本人の言葉

子供本人の口から話されてこそ意味がある

3. 児童生徒理解

主たる目的の一つが児童生徒理解である

4. 問題発見・解決

悩みや問題の兆候を把握し解決への対応をする

※ そのほか「定期相談には複数の目的がある」という傾向もありました

いかがでしょうか。納得できるもの、違うなあと思うものがあるかもしれません。ここで注意したのは、これらの「捉え」が「こうあるべき」という極端な信念（「べき論」）として偏ってしまうとき、教師と児童生徒の双方にとって、見えない心理的負担となってしまうことです。

こうした「べき論」が強くなりすぎると、悪循環につながりかねません。



大切なのは、これらの「捉え」を柔軟に、現実的に捉え直すことかもしれません。例えば、「本音話をしてくれることもある」「本人が話してくれればよいが、他の情報も大切に使う」といった具合に。そうすることで、教師はより現実的な目標設定ができ、子供たちに対してもより穏やかで効果的な関わりができるのではないのでしょうか。

定期相談の前にチェックしたい「日常」のこと

定期相談は特別な時間であると同時に、日常の延長線上にあります。



そこで、定期相談で子供たちと向き合う前に、普段のあなた自身と一人一人の子供たちとの関わりを振り返ってみるとどうでしょうか。対面する前に、日常の関わりを振り返ってみることで、定期相談で子供が見せる姿の理解に生かすことができます。

- ・ 普段から自分とよく雑談している子かな（子供によって多い少ないがありませんか）
- ・ 現在、指導中の案件がある子、または最近、何かの指導をしたばかりの子かな
- ・ 普段から、生活面や学習面で「指導する」機会が多い子かな…など

定期相談は、**日頃の自分自身の関係構築のあり方が垣間見える場**と言えるかもしれません。

「定期相談は何のため」を問い直してみる ～情報収集から心を通わせる時間へ～

さあ、いよいよ定期相談です…が、つい「お説教モード」「質問モード」になってしまっ
ていませんか？定期相談は「指導の時間」ではありません。とは言うものの、定期相談に限らず、子供たちをよりよく導きたいという思いが強くなればなるほど、質問を重ね、「指導」に力が入りがちになるのが教師です。

しかし、回数も時間も限られた定期相談です。限られた定期相談の時間で、あなたがその子と**必ずしたいことは何でしょうか？**

定期相談の時間を、情報収集や指導の時間にするのではなく、子供が短い時間の中でも「自分のことを気にかけてくれている」「何でも話してみたいんだ」と感じられるような時間にすることを目指しませんか？定期相談は、日常の忙しさの中で立ち止まり、その子自身に目を向け、「ここでは、どんなあなたでも、大丈夫だよ」と**子どもに寄り添う姿勢を示す大切な機会**です。

この定期相談サポートシート集が、先生方の児童生徒理解、そして子供との双方向のコミュニケーションや心の距離が縮まる定期相談の一助となれば幸いです。